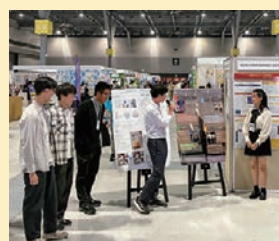


ユネスコスクール 活動事例集



第13集



愛知県教育委員会

目 次

ユネスコスクール 活動事例①	長久手市立長久手小学校	2
ユネスコスクール 活動事例②	長久手市立西小学校	4
ユネスコスクール 活動事例③	長久手市立東小学校	6
ユネスコスクール 活動事例④	豊橋市立磯辺小学校	8
ユネスコスクール 活動事例⑤	愛知教育大学附属名古屋中学校	10
ユネスコスクール 活動事例⑥	愛知教育大学附属岡崎中学校	12
ユネスコスクール 活動事例⑦	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	14
ユネスコスクール 活動事例⑧	愛知教育大学附属高等学校	16
ユネスコスクール 活動事例⑨	愛知県立愛知商業高等学校	18
ユネスコスクール 活動事例⑩	愛知県立豊田東高等学校	20
ユネスコスクール 活動事例⑪	名古屋市立北高等学校	22
ユネスコスクール 活動事例⑫	名古屋市立山田高等学校	24
ユネスコスクール 活動事例⑬	名古屋経済大学市邨高等学校	26
ユネスコスクール 活動事例⑭	中部大学第一高等学校	28
	愛知県ユネスコスクール交流会（愛・地球博20祭）	30
	愛知県ユネスコスクール交流会（SDGs子ども・ユースフェア）	32

はじめに

ユネスコスクールは、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進拠点として位置づけられ、ユネスコ憲章に示された理想の実現を目指して1953年に創設されました。地球規模の課題への理解、人権・民主主義の促進、異文化理解、環境教育などのテーマに取り組む、質の高い教育を実践する学校です。世界では180か国で約10,000校以上、日本国内では2025年9月現在で1,083校が加盟しています。

愛知県では、2014年に名古屋市で開催された「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」を契機に加盟が進み、現在では申請中・キャンディデート校を含め74校が活動しています。

2015年に国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、「すべての子どもが暴力や搾取から解放される世界」が掲げられ、子どもたちが変革の主体であることが明記されています。教育をはじめとする多様な学びや体験の機会を整えることが重要です。

愛知県教育委員会では、児童生徒・学生・教員等が交流し、学び合う交流の場として、2025年度は、「SDGs子ども・ユースフェア」および「愛知万博20周年記念事業」の両イベントの一環として、「ユネスコスクール交流会」を開催しました。各校のESD活動の成果を発表するポスター展示やステージ発表、来場者とのディスカッションを通じて、学びの深化とネットワークづくりが図られました。これらの取組は、持続可能な社会づくりに向けた実践の広がりを示す貴重な機会となりました。

また、ユネスコスクールへの講師派遣や管理職・ESD実践担当者を対象としたESD・SDGs推進指導者研修会を実施し、活動の質的向上と同士の交流を目的とした支援事業を行っています。

本事例集は、ESDの推進拠点であるユネスコスクールに加盟する県内の学校実践をまとめたものです。学習指導要領の前文及び総則においては、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられ、各教科指導においてもESDの視点での授業改善が求められています。ユネスコスクール加盟の有無を問わず、すべての学校においてESDの充実と広がりへとつながり、未来を担う子どもたちの学びに向かう力を育むきっかけとなることを願っています。

最後に、本事例集作成にあたりご協力いただいたユネスコスクールの先生方、及び関係市町村教育委員会をはじめとした関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

2026（令和8）年3月

愛知県教育委員会



長久手市立長久手小学校

住 所：〒480-1103 長久手市岩作中縄手40-1

連絡先：TEL 0561-62-0002 FAX 0561-63-7591

H P：http://nenaga.nagakute-aichi.ed.jp

創 立：1876年

学級数：24

児童数：576人

生物多様性

海洋

減災・防災

気候変動

エネルギー

環境

文化多様性

世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等

国際理解

平和

人権

ジェンダー平等

福祉

持続可能な生産と消費

健康

食育

貧困

エコパーク

ジオパーク

グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)

その他関連分野

和の心を大切につながり笑顔広がる学校づくり

はじめに

長久手小学校は、長久手市の中央部に位置し、国指定史跡「長久手古戦場」の記念館が校区に隣接している。明治8年に創立され、令和8年には120周年を迎える歴史ある小学校である。地域とのつながりを大切にしながら、

子どもたちが主体的に学び合う学校づくりを目指している。地域コーディネーターや地域ボランティアの方々との交流をととして、地域を知り地域の将来を考え行動できる子どもたちの育成をしようと実践を進めている。

実践内容①

「地域の人と作ったさつまいもを地域の人と防災調理へ」

ねらい：農業や防災調理体験をととして、
地域と学校が連携して子どもたちの学びを支える。

長久手小学校では、令和5年より校区内の農家さんのサポートによるさつまいもづくり体験を行っている。畑の持ち主である青山さんは、子どもたちに対して、うねのつくり方や水やりの頻度、苗を植える際の注意点など、さまざまなことを教えてくださった。子どもたちからは、「さつまいもづくりには、こんなにたくさんの工程があるなんて初めて知った」「さつまいもづくりは重労働だ」という感想が聞かれた。

収穫したさつまいもは、6年生がPTAの方々や地域コーディネーター、地元ボランティアの方たちと一緒に、防災

調理（パッククッキング）を行った。全校朝会では、栄養教諭から「災害時の温かい食事は、身も心も癒やす効果があること」、「ライフラインが使えなくなってもできる調理方法があること」を学ぶことができた。子どもたちは、地域の方たちと手際よく調理し、全校児童と教職員、参加していただいた全ての皆さんの分のさつまいもを調理した。出来上がったさつまいもは、給食の際にふるまわれ、皆で会食した。「簡単においしく食べられてよかった」「また来年もやりたい」という感想があがった。今後も地域と学校が連携しながら、防災意識の向上に努めたい。



地域の方との防災調理の様子

成 果

農業体験や防災調理体験など地域の方々と直接関わる活動は、子どもたち一人一人に充実感や満足感をもたせ、意欲的に課題に取り組む姿勢につながった。また、地域と学校が一緒に防災活動を行うことで、近隣住民との交流が生まれ、連携体制を強化することができた。

実践内容②

「持続可能な社会をめざす『メタオくん』プロジェクト」

ねらい：「メタオくん」をどのように活用していくのかを考え、
すべての人が利用できる仕組みを考える。

令和5年6月に、小学校の敷地内に新設された「メタオくん」（生ごみをメタンガスと液体肥料に資源化できるバイオガス装置）への関心の高まりから、有志児童によるプロジェクト委員会が結成された。プロジェクト委員会は、市役所（地域共生課）の職員やバイオガス装置提供企業（アマタホールディングス）と連携しながら、「メタオくん」の情報をまとめ、どのように活用していくかを考えた。

プロジェクト委員会の「活用部」では、「メタオくん」のえさとなる生ごみを、全校児童からどのように集めるかを考えた。生ごみを入れる場所や方法など紹介したリーフレットを作成し、全校えさやり体験会を運営した。また、プログラミングの得意な児童は、「メタオくん」がどのように生ごみを分解していくのかがわかるタブレットゲームを開発し、低学年でもその仕組みがわかるようにした。

「デザイン部」では、「メタオくん」の装置に対して、使う人がもっと親しみを感じられるようにと壁面に絵を描くことを提案した。地域コーディネーターの方々の計らいで、近隣の名古屋学芸大学情報メディア科の教授、学生さんから、壁画制作に対して全面協力をしていただくことができた。「デザイン部」のアイデアを基に、大学生の力も借りながら、七色の虹がかかった「メタオくん」を完成させた。

「広報部」では、全校朝会や、お昼の放送の時間を使って、それぞれの活動内容を全校に報告した。「メタオくん

ゲーム」については、二次元コードを印刷して各教室に配付したり、「メタオくん」のえさやり体験会の際には、



「メタオくん」の壁画デザイン

その様子を動画に撮影・編集し、『メタオくんnews』としてお昼の放送で放映したりした。

「メタオくん」は約2年間、長久手小学校の子どもたちとともに学習教材として活躍してきたが、令和7年度から始まる校舎の大規模改修（4か年）に伴い、市役所横にあるエコハウスに移設されることが決定した。

移設に伴い、「メタオくん」のことを自分たち小学生だけでなく、広く市民の方に知ってもらおうと、これまでの学びの経緯を「移設セレモニー」で発表した。また、セレモニーの中では、ワークショップとして小学生と市民による『メタオくん』交流会も開催された。「生ごみがないまち長久手市」「動くメタオくん」など、「メタオくん」の可能性と長久手市の持続可能な未来を創造するアイデアがたくさん出された。今後も「メタオくん」と子どもたちがつながりをもてるような取組を続けたい。



えさやり体験会の様子

成果

「メタオくん（バイオガス装置）」という教材をとおして、生ごみが資源として再利用できる過程を楽しく学ぶことができた。また、「メタオくん」が地域社会や環境においてどのように役立つかを理解し、すべての人が利活用できる持続可能な循環型社会の実現について考えを深めることができた。

おわりに

本校は、地域との「和」、自然環境との「和」、国際交流の「和」など、さまざまな「和」を広げる教育活動を進めてきた。このような活動から、子どもたちは教室では得られない生きた知識やスキルを日々学び続けている。また、この活動を地域の方々と一緒に行うことで、みんなと協力

することの大切さと楽しさも実感している。令和8年度より、本校は新たにコミュニティ・スクールとしての歩みをスタートさせる。学校を核として、地域全体で子どもたちの学びを支え、地域の持続可能な未来を育むために、今後も活動を継続していきたい。





長久手市立西小学校

住 所：〒480-1152 長久手市打越901

連絡先：TEL 0561-62-2936 FAX 0561-63-7592

H P：https://nenishi.nagakute-aichi.ed.jp/wp/

創 立：1976年

学級数：21

児童数：551人

生物多様性

海洋

減災・防災

気候変動

エネルギー

環境

文化多様性

世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等

国際理解

平和

人権

ジェンダー平等

福祉

持続可能な生産と消費

健康

食育

貧困

エコパーク

ジオパーク

グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)

その他関連分野

自ら課題を設定し、解決に向けて行動する児童

はじめに

本校は長久手市西部に位置し、開校50周年を迎えた。今年度ユネスコスクールの加盟承認を受け、自ら課題を設定し、解決に向けて行動する児童の育成を目指している。ユネスコ委員会では、SDGsの観点から学校の課題を見

つけ、課題に合った活動内容を児童が設定し、解決に向けて取り組んでいる。また、総合的な学習の時間では、学年毎にテーマを設定し、体験活動や調べ学習を行っている。この中から3つの取組について紹介する。

実践内容①

「ペットボトルキャップ回収運動」

ねらい：キャップの回収をととして、世界の子どもたちを支援する活動に協力しようという気持ちを高める。

SDGsを達成するためのユネスコ委員会の活動として、ペットボトルキャップ回収を行いたいという意見が挙がった。ただ集めるのではなく、「集める目的」「回収を行っている団体」「他校での取組例」を児童が主体となって調べた。自ら調べる活動をととして、回収されたキャップがリサイクルされるだけではなく、リサイクル資源としての売却益で開発途上国にワクチンを届ける活動があることを知り、

世界の子どもたちを助ける

取組に協力したいということで、活動方針が決定した。校区にあるアピタ長久手店で回収されたキャップもワクチンになることを知り、学校で集めたものを特別に回収していただけることになった。ユネスコ委員会の児童が、回収を行う日の朝に昇降口で協力を呼びかけたり、休み時間に回収ボックスのキャップを集めて数えたりした。5日間で8,855個のキャップを集めることができた。一時的なキャンペーンではあったが、学校での取組が終わっても、アピタ長久手店の回収ボックスを利用すれば、世界の子どもたちを救うためのワクチンになるということを全校に放送し、今後の生活にも生かせるように知らせた。



回収したキャップを数える児童の様子

成 果

ペットボトルキャップ回収の目的を事前に知らせたり、ユネスコ委員会だけでなく全校で協力して行ったりすることによって、全校児童に世界の子どもたちを救うための取組に参加できたという達成感を味わわせることができた。

実践内容②

「総合での学びが委員会活動へつながった
『環境学習』」

ねらい：巻心の回収をととして、自分たちにも簡単にできる
エコ運動に参加しようという気持ちを高める。

令和6年度、4年生の総合的な学習の時間に「環境学習」の取組の一環として、粘着テープの巻心を回収して送るエコ活動を行っていた。ユネスコ委員会の活動を決める際、当時4年生で活動を行っていた児童から、「4年生でやった巻心回収を続けて、地球の緑を守っていきたい」という意見が挙がり、巻心の回収活動をユネスコ委員会が継続することにした。このエコ活動は、集まった巻心を古紙回収業者に買い取ってもらい、ダンボールに再生

され、その利益がマングローブの植林と、森の手入れに使われているというものである。活動を行うにあたり、児童は回収ボックスにメッセージを書いたり、呼び掛けの発表原稿を考えたりして、全校に協力してもらうための工夫を凝らしていた。



児童が作成した巻心回収ボックス

成果

陸の豊かさを守るための取組として、自分たちにできることを考えて、全校で取り組むことができた。

実践内容③

「地域の方々と共に学ぶ
『地域の伝統文化』『福祉』」

ねらい：地域の伝統文化を継承しようという思いや、
地域で暮らす人々と助け合おうという気持ちを育む。

3年生の総合的な学習の時間では、地域の方を講師に迎え、愛知県の無形民族文化財に指定されている「棒の手」を体験している。二人一組となって、木の棒や木刀を使った武術の型を教えていただいた。初めて体験する児童が多く、身長より長い棒の扱いに苦労したが、みんな楽しみながら伝統芸能に触れ合った。

5年生では、社会福祉協議会の協力の下、福祉実践教

室を行っている。障がいをもつ方から話を聞いたり、点字や手話、車いすを体験させていただいたりした。児童は皆真剣に取り組んでおり、福祉に対する意識を高め、実際の生活の中に生かしていこうとする気持ちをもつことができた。



車いすの支援方法を体験する児童の様子

成果

地域の方を講師に迎えて行う授業では、児童が生き生きと学びに向かう姿が見られ、伝統を継承しようという思いや、周りの方々と助け合っていきたいという思いを育むことができた。

おわりに

ユネスコ委員会を中心に、学校の課題に合った活動内容を児童が設定し、解決に向けて取り組んできたが、SDGsに関する取組を行っているのはユネスコ委員会だけではない。今後はさまざまな委員会でSDGsの達成に向けての活動を児童主体で考えられるようにしていきたい。

また、地域の方々との関わりは総合的な学習の時間だけでなく、1年生の生活科では定期的に「もりの学舎」の方々の出前授業を行うなど、地域の方々との温かな交流が続いている。思いやりのある児童の育成のため、今後も地域との関わりを密に行っていきたい。





長久手市立東小学校

住 所：〒480-1102 長久手市前熊前山174

連絡先：TEL 0561-62-4353 FAX 0561-63-7593

H P：https://nehigasi.nagakute-aichi.ed.jp/

創 立：1981年

学級数：24

児童数：654人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー **環境** 文化多様性 **世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等**
 国際理解 平和 **人権** ジェンダー平等 **福祉** 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
 エコパーク ジオパーク グローバル・シチズンシップ教育 (GCED) その他関連分野

気づき、考え、実行する！ 東小のSDGsアクション

はじめに

本校は、長久手市東部の自然豊かな地域にある。保護者が本校の卒業生という家庭もあり、児童は「人とのつながり」や「自然とのふれあい」を大切にしながら、日々学校生活を送っている。

本校の教育理念の一つに、「気づき、考え、実行する」があり、児童自らが課題を見つけ、解決のために考え、行動に移すことを大切にしている。今回は、ユネスコスクールの実践として、ユネスコ委員会の取組を中心に紹介する。

実践内容①

「ユネスコスクール交流会での活動成果の発表」

ねらい：本校の伝統とユネスコスクールとしての取組を紹介し、活動を未来に繋ごうとする意欲を育てる。

令和7年9月20日に愛知万博20周年記念行事「愛・地球博20祭」の催しの一つとして「ユネスコスクール交流会」が、愛・地球博記念公園にて行われた。長久手市のユネスコスクール加盟校の一つとして本校も交流会に参加した。本校は長久手市の中でいち早くユネスコスクールに加盟しており、「気づき、考え、実行する」を合言葉に、児童は学校生活を送っている。交流会では、「気づき、考え、実行する」の合言葉とSDGsを結びつけ、本校で取り組んできた活動の様子をユネスコ委員会の児童が発表した。児童は事前準備にも熱心に取り組み、発表当日について

も大変意欲的に行うことができた。

発表では、ユネスコ委員会の常時活動として正しい分別を広める「プラ活」や「ペパ活」、さらに身近なSDGsアクションをビンゴ形式で達成していく「エコの木キャンペーン」を紹介した。他の委員会が実施した、食品ロス削減のための給食すごろく、世界のあいさつに挑戦する取組などを発表し、全校でSDGsへの意識が高まっていることを伝えた。また、4年生が、「服のカプロジェクト」で1,100着以上の服を集めて、海外の子どもたちへ送り届け、成果を上げたことも紹介した。



「ユネスコスクール交流会」発表の様子

成 果

本校の活動成果を発表したり、他校の活動成果を聞いたりすることで、本校がユネスコスクールとして意欲的に取り組んでいる点を再確認することができた。また、児童にとっては、学校外での発表を成功させたことでやりがいと達成感を感じることができる貴重な機会となった。

実践内容②

「エコの木を育てよう！
SDGsビンゴキャンペーン」

ねらい：ビンゴゲームを通じ、
「自分たちにできるSDGs」を楽しみながら実践する。

今年度、ユネスコ委員会では「エコの木を育てよう！SDGsビンゴキャンペーン」を実施した。この取組は、ユネスコスクールであることを全校に改めて知らせ、東小学校をよりよい学校にするために自分たちにできることを考えて企画したものである。全校児童に配付した3×3のビンゴカードには、「水を出しっぱなしにしない」など身近なSDGsアクションを設定し、達成するとマスが埋まる仕組みにした。ビンゴを達成した児童は、「給食を残さず食べる」など今後も続けたい目標が書かれた「エコの木」

にエコの花を貼り、全校で1本の木を完成させた。

児童からは「もっと花を咲かせたくなった」「次の目標にも挑戦したい」などの声もあがり、SDGsを意識するよい機会となった。



みんなで完成させた「エコの木」

成果

ビンゴゲームを通じ、楽しみながら「自分たちにできるSDGs」を知ってもらう機会をつくることができた。また、今後もSDGsを意識して生活しようという意欲を高めることができた。

実践内容③

「伝統を引き継ぎ、
未来へ継承する『ザイ踊り』」

ねらい：地域の伝統芸能のすばらしさを知り、
継承していきたいという思いを高める。

今年度も、「ザイ踊り」の継承活動を行った。「ザイ踊り」とは、明治初期から長久手市内の本地区に伝わる先祖供養のための踊りである。3年生が、総合的な学習の時間に伝統芸能学習の一つとして取り組んだ。本校では、平成26年度から、地元で「ザイ踊り」の継承活動を行っている地域の外部講師を招き、指導をいただいている。「ザイ踊り」の由来や全13番までの歌詞の意味について学んだり、実際に踊りを習得したりしながら、全5回10時

間に渡り、継承活動を行った。

その後、地域の伝統芸能を多くの人に伝えたいという意識が児童の中で高まり、歌詞をもとにした創作劇を保護者の前で披露することができた。



「ザイ踊り」の練習の様子

成果

歌詞の背景を理解しながら、地域に伝わる伝統芸能を意欲的に学んだ。また、学んだことを後世に引き継いでいきたいという思いをもち、発表を行った。

おわりに

本校はユネスコスクールとして認定され10年以上経つ。学校規模が年々大きくなったことや、教員の入れ替わり等が原因で、取り組んでいる活動の中には、目的や意義を深く考えずに実践しているものもあった。しかし、ユネ

スコスクール交流会をとおして、児童とともに目的や意義を見直し、学校全体に広める機会を設けることができた。今後も「気づき、考え、実行する」を合言葉に、児童がより主体的に活動し、一人ひとりが輝ける工夫をしていきたい。





豊橋市立磯辺小学校

住 所：〒441-8145 豊橋市駒形町丸山61番地

連絡先：TEL 0532-45-2608 FAX 0532-44-1382

H P：https://www.toyohashi-c.ed.jp/isobe-e/

創 立：1873年

学級数：22

児童数：568人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー 環境 **文化多様性** 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等
国際理解 平和 人権 ジェンダー平等 福祉 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
 エコパーク ジオパーク グローバル・シチズンシップ教育 (GCED) その他関連分野

「国際理解」「多文化共生」いそべっ子の学び

はじめに

豊橋市は、外国人居住者が2万人（人口の約6%）を超える「国際共生都市・豊橋」であり、そこで暮らす磯辺小の児童においては国際理解と共生意識の涵養が求められている。磯辺小は市内6小学校が加盟しているユネスコ

スクールとして、国際理解や平和の実現に向けて持続可能な開発のための教育（ESD）を推進するとともに、その推進拠点校として役割を果たすため、実践やその成果を発信、共有に取り組んでいる。

実践内容①

「『パネヴェジス市』ってスラスラ言えるかい？」

ねらい：豊橋市のパートナーシティであるパネヴェジス市との交流を推進し、その成果を地域に広める。

ユネスコスクールである磯辺小学校の6年生は、いそべ学習（総合的な学習の時間）で「国際理解」「多文化共生」をテーマとした学習に取り組んでおり、修学旅行では大阪・関西万博を訪れ、その学びを深め、広めたいと学習計画を立てた。児童は万博訪問を機に、豊橋と友好姉妹都市、パートナーシティ協定を結んでいる都市の中で、一番歴史が浅く、知名度も低いパネヴェジス市があるリトアニア共和国について学び、豊橋市の人々にその魅力を発信したいと考えた。5月1日に、1年を見通した学習のガイダンスとして、豊橋市役所多文化共生・国際課より講師を招き、

リトアニア共和国パネヴェジス市について、基礎知識を身につけた。5月23日には、パネヴェジス市の教育局長、小中高の校長をはじめとする教職員27名が、磯辺小を訪問し、授業や給食などをおして、交流を深める機会を得た。6月3日には、大阪・関西万博のリトアニアパビリオンを訪問した。日本語が堪能なリトアニアのスタッフさんと、リトアニア語でコミュニケーションを図り、交流を深めた。館内に飾られたソダスやそこに漂うハーブの香りなどをおして、リトアニアの伝統・文化を体感した。



Labas Ačiū Iki @万博

成 果

児童は、豊橋市とリトアニア共和国の交流が2005年「愛・地球博」のフレンドシップ事業をきっかけとしていることや、第二次世界大戦中にリトアニアのカウナスで約6,000人の命を救った杉原千畝さんが尊敬されていることなどを知り、パネヴェジス市との歴史的な深いつながりも実感した。

実践内容②

『「リトアニアフェア～We are One～」で
待ってま～す!』

リトアニアフェア We are One

ねらい：パネヴェジス市の教職員27名の来校や
大阪・関西万博訪問での学びを市民に発信する。

パネヴェジス市の教職員との交流や万博訪問で得た気づきや学びを、新聞やホームページ等をおして積極的に発信したところ、磯辺小の「国際理解」と「多文化共生」をねらいとした取組は、地域の多くの方々に知られることとなった。こうした学習過程の中で、7月6日には、豊橋市国際交流協会とリトアニアの雑貨販売店「ALINA KUKKA (アリナクッカ)」と「リトアニアフェア～We are One～

in em CAMPUS EAST」を共催する

機会を得た。このイベントでは、児童のこれまでの気づきや学びをプレゼンテーションするとともに、参加児童は参観していただいた方々との意見交流や質疑応答を行い、さらなる探究学習につなげることができた。

成果

児童は「リトアニアフェア」の成功を自信として、「愛知県ユネスコスクール交流会」では、ポスターセッションに参加するとともに、リトアニアの伝統工芸品「ソダス」づくりのワークショップを企画・実施し、学びと発信の新たな展開に挑戦した。

実践内容③

『我らの『むくろう』『むく葉』『むくみ』
海を渡る!』

リトアニアの子ども with むくみ

ねらい：「むくろう」キャップとともに写る海外の人々の
写真をおして互いの心を通い合わせる。

海外の人々との交流では、磯辺小マスコットキャラクター「むくろう」たちが刺繍された帽子を相手に贈り、その方々が暮らす「まち」の景色と帽子がともに写る写真を、磯辺小の子どもたちに届けてもらうプロジェクトを企画した。5月23日に磯辺小に来校したパネヴェジス市の先生方からは、現地の子どもたちと撮影した写真が届いた。また、磯辺小校長が「JICA教師海外研修(教育行政コース)」に

参加し、パプアニューギニアの

ソゲリ小学校、教員養成校などを訪問した機会にも、「むくろう」キャップを現地で出会った人々に贈った。こうした写真をおして、磯辺小の子どもたちは、そこに写る海外の人々に親しみを感じ、その暮らしぶりに思いを馳せるようになった。

成果

磯辺小のキャラクターがともに写る写真をおして、児童はリトアニア共和国、パプアニューギニアに親しみと興味・関心を抱いた。児童にとってなじみの少ない国で暮らす人々の生活から得られる新たな気づきや共感「異文化理解」への大きな一歩となった。

おわりに

大阪・関西万博の開催を「国際理解教育」の好機として、児童の「気づき」や「思い」を大切に学習を進めながら、ユネスコスクールとしてそこで得た「学び」の積極的な発信に取り組んだ。その結果、多方面から多くの賛同、支援をいただき、予想以上の「学び」の広がりやダイナミックな

学習機会を得られた。この「学び」をまとめ、引き継ぐために応募した第16回ESD大賞では「優秀賞」も受賞でき、子どもたちとその喜びを分かち合うこともできた。いそべっ子の「学び」支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げたい。





愛知教育大学附属名古屋中学校

住 所：〒461-0047 名古屋市東区大幸南一丁目126番地
連絡先：TEL 052-722-4613 FAX 052-722-3812
H P：https://www.nj.aichi-edu.ac.jp/

創 立：1947年
学級数：15
生徒数：450人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー 環境 文化多様性 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等
国際理解 平和 人権 ジェンダー平等 福祉 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
エコパーク ジオパーク グローバル・シチズンシップ教育 (GCED) その他関連分野

総合的な学習の時間「FLIGHT」の取組

はじめに

本校は、総合的な学習の時間を「FLIGHT」と名付け、3年間の学習内容を系統立て、学習の目標や内容等を整理し、目指す生徒像を育成する取組を行っている。

「FLIGHT」は、総合的な学習の時間において育みた

い資質・能力を示すもので、Find (問題を見いだす力)、Hypothesis (仮説を立てる力)、Inspection (検証する力)、Grow (改善する力)、Tell (まとめ、発表する力)、Lookback (振り返る力) の頭文字をつなぎ合わせたものである。

実践内容①

『修学旅行』における探究(3年生)

ねらい：鮮やかなソリューション(新たな価値や発想に基づく解決策)でウェルビーイングを実現する。

1年生で作成したMIRAI MAPを振り返り、自身の「好き・得意・興味・強み」を再確認するとともに、これまでの体験や特性をもとに、社会に存在する困りごとや課題について考察した。その上で、自分の強みを生かし、個人や社会の課題に対して、ウェルビーイングを実現するための鮮やかなソリューションを構想した。解決策を提案する企業や団体を検討し、課題の現状や多様な解決方法について調査・追究したうえで、プレゼンプロットシートを活用し、提案内容を整理した。外部講師による助言を受けながら構想や表現を見直し、中間成果発表会を実施



修学旅行で企業にプレゼンする生徒



した。生徒同士や教員によるフィードバックをとおしてアイデアを磨き上げ、企業訪問では実際に企業の方へプレゼンテーションを行い、専門的な視点からの意見をいただいた。中学生が企業の方に向けて提案するという機会はふだんの学校生活の中ではなかなかできない経験だったが、これまでの準備の成果を発揮でき、企業の方からも称賛の声をいただけた。これらの探究学習や修学旅行での学び、企業からのフィードバックを成果発表会用のスライドやまとめ冊子に整理した。

成 果

自身の「好き・得意・興味・強み」から着想し、社会の問題を解決させるという探究のプロセスを経ることで、大人になってから社会貢献ではなく、中学生でも社会貢献ができるという社会への参画意欲や社会への責任の自覚を芽生えさせることができた。

実践内容②

『小豆島の生活』における探究（2年生）

ねらい：小豆島の現状を基に、問題を見出したり、その問題に対する仮説を設定したりする。

小豆島観光協会の方にオンラインで、小豆島についての魅力と課題についてお話をしていただき、その魅力や課題がSDGsのどのパレットと関わりがありそうかを考えた。その中から「具体的な問題」やその解決策を基に「仮説」を考え、グループで一つの仮説を設定した。大学生アドバイザーの方による助言を受けながら仮説を見直し、仮説の検証のために、訪問先で聞きたいことややりたいことを考え、質問状を作成した。訪問当日には、質問状への

回答をいただいたり、体験的な学習をしたりして、現

地でしか味わえない学びの中で仮説の検証を行うことができた。これらの学びの成果を成果発表会用のスライドやまとめ冊子に整理し、発表した。



小豆島で解決策について話し合う生徒

成果

「小さな夢、大きな島」というスローガンを掲げ、本校で50年以上続く「小豆島の生活」でしかできない学びを展開することができた。「具体的な問題」から「仮説」を設定するという探究のプロセスを経た学びとなり、修学旅行における探究へつながった。

実践内容③

『校外学習における探究（1年生）』

ねらい：MIRAI MAPに描いた未来・夢と校外学習をつなぎ、SDGsについて理解を深める。

外部講師の指導のもと、MIRAI MAPを作成し、「好き・得意・強み・興味」の四つの視点で自己分析を行ったり、「SDGsの17のゴールのうち、特に興味があるのはどれか」を考えたりしながら、「世の中の問題や課題を夢で解決する」、「今、世の中にないものは自分がつくればいい」という視点で未来の夢を描いた。校外学習として、興味のあるSDGsに対する取組を行っている企業を訪問し、事前に調べたことや訪問して疑問に感じたことを質問し、

SDGsに対する理解を深めた。その後、自身で描いた

MIRAI MAPと校外学習で学んだことについて発表することで、MIRAI MAPとSDGsのつながりについて整理することができた。



企業での取組に対して質問する生徒

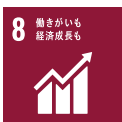
成果

興味があったり、自分の描く未来に関わったりするSDGsに対する取組をしている企業を訪問することで、関わりについて考えることができた。事前に調べて質問し、回答を基にSDGsについて振り返ることで、「小豆島の生活」への探究へとつながった。

おわりに

全学年の実践から分かるように、3年間の系統だった指導・計画により、「FLIGHT」が表す、総合的な学習の時間において育みたい資質・能力が全学年において育まれた。これらの資質・能力は、各教科の学習や普段の学校生活にもつながっており、探究のプロセスで考える生徒

が増えている。今後は、SDGsを土台にしつつ、SDGsの考え方が重視される時代に移行していく時代となる。本校としては、自身の「好き・得意・興味・強み」から「人や社会の幸せ」を考えられるような学習を継続していくことで、ESDを継続していきたい。





愛知教育大学附属岡崎中学校

住 所：〒444-0864 岡崎市明大寺町栗林1

連絡先：TEL 0564-51-3637 FAX 0564-54-4518

H P：https://www.oj.aichi-edu.ac.jp

創 立：1947年

学級数：12

生徒数：418人

生物多様性

海洋

減災・防災

気候変動

エネルギー

環境

文化多様性

世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等

国際理解

平和

人権

ジェンダー平等

福祉

持続可能な生産と消費

健康

食育

貧困

エコパーク

ジオパーク

グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)

その他関連分野

既成概念にとらわれず、果敢に挑戦する子ども

はじめに

本校では、ESDを「持続可能な社会を実現するための教育」と捉え、授業研究に努めている。私たちの生活や社会は、著しい情報化や加速度的な技術革新、多様な価値観の広がりにより、今後、更に速く、複雑に変化し続けて

いくだろう。先が見えない変化の中で、さまざまな人の思いに心を寄せ、自分がなすべきことを考え抜くことが必要である。以上の考えより、目指す子どもの未来の姿を「既成概念にとらわれず、果敢に挑戦する子ども」とし、実践した。

実践内容①

「FOC Vege Report」

ねらい：ヴィーガンへの理解を深めたり紹介したりすることで、多様性を受け入れようとする意識を高める。

子どもは、外国人観光客の日本満足度調査結果や、インタビュー動画を視聴し、日本での食事に困り感を抱く外国人が多いことを知った。子どもは、その理由を調べていく中で、「ヴィーガン」の存在を知る。海外では彼らに対する理解が進んでいる一方で、日本人の彼らに対する理解はどうなっているのだろうか」と疑問を抱いた。追究をする中で、ヴィーガン対応店が少ないことや否定的な考えをもつ人が多いことから、彼らに対する日本人の理解は乏しいということに気づいた。日本にいるビーガンがそうである

ように、自分が外国で食に不自由な状況に陥ったことを想像することで、ヴィーガンが抱く切実性に共感し、その現状を打破する必要があると考えた。そして、「彼らのために私たちにできることは何だろうか」という問題を見いだした。実際にヴィーガンのかたへ取材をしたり、解決方法について外国人と意見交換をしたりする中で、「日本人がヴィーガンに対する理解を深め、多様性を受容することが大切だ。日本人に対してはたらきかけていくことが、ヴィーガンが食を楽しむことにつながる」という考えを共有した。



外国のかたとの意見交換

成 果

子どもは学んだことを生かし、「ヴィーガンについて発信し、彼らを身近な存在にしたい」「ヴィーガン対応食を多くの人に紹介し、彼らのライフスタイルを広めたい」と考え、国際イベントに参加したり、ヴィーガンメニューを考案し、給食メニュー化を図ったりして、ヴィーガンに対する理解を深めた。

実践内容②

「集まるまち 広がる未来」

ねらい：コンパクトシティ化を住民の理解を得ながら
進めることの大切さを学び、よりよい未来を願う。

最近のニュースの話題として、豊橋市の新アリーナ建設について挙がった。調べる中で、国が進めるコンパクトシティ構想と関わりがあることを知る。更に、人口減少社会への対策として構想され、まちの中心に拠点をつくり、人や生活するのに欠かせない施設をその拠点に集めることで利点が多いことを知る。しかし、計画を進めるには課題もあることに気づき、「豊橋市はコンパクトシティ化をどう進めるべきだろうか」という問題を見いだした。子どもは、

住民理解、水害対策、都市化の何を優先して進めるべきかを市役所を訪れたり、現地調査をしたりしながら追究した。その後「郊外の住民にも配慮されたコンパクトシティ化によって、豊橋市全体の幸せにつながる」という考え方を共有した。



子育て支援センターに発信する子ども

成果

子どもは学んだことを生かし、成果を急がず、時間をかけて長い目で見ていくことが大切だと考え、ポスターにまとめた。そして、コンパクトシティの魅力が住民に伝わるように図書館や子育て支援センターに発信し、豊橋市民が幸せに暮らせることを願った。

実践内容③

「響け魂の太鼓」

ねらい：和太鼓演奏の迫力、統一感、思いをつなげる
大切さに気づき、多くの人と音楽を感じ合う。

1000人太鼓と出会った子どもは、迫力ある演奏に魅せられ、多くの人と思いを共有する音楽がしたいと考え、追究を始めた。太鼓を叩いてみると、仲間と音を合わせる難しさに困り感を抱き、音でつながる必要性や一体感のある演奏が欠かせないことに気づいた。そして、「一体感のある演奏をするには、どのように工夫すればよいだろうか」という問題を見いだした。追究する中で、音の強弱の差でメリハリをつけたり、音色の変化を工夫したり、バチ

の軌道や動きをそろえようとしていたりした。和太鼓演奏のプロに意見を求め、極めていった。そして「和太鼓ならではの迫力、動きと音をそろえた統一感のある演奏、演奏者の思いをつなげることが大切だ」という考え方を共有した。



1000人太鼓を披露する子ども

成果

子どもは学んだことを生かし、一体感のある演奏を披露して世界の人に和太鼓の魅力を伝えたいと考えた。そして、EXPO 2025 大阪・関西万博にて1000人太鼓を披露し、多くの人と共に音楽を感じ合った。

おわりに

未来を生き抜く子どもには、自分と周りの人々の豊かで幸せな生活を希求し、持続可能な社会を実現してほしい。そのためには、生活教育を基盤として問題解決的学習過程による授業をとらして、子どもの問題解決力を高めることが肝要である。令和8年度より、新たな研究がスタート

する。その中で、問題解決的学習過程による授業実践を積み重ねる。令和8年10月6日(火)には、本校にて生活教育研究協議会を開催し、9教科の授業を公開する予定である。そして、三河地区、愛知県内、更には全国へと広く実践を紹介していく予定である。





名古屋大学教育学部附属中・高等学校

住 所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町

連絡先：TEL 052-789-2680 FAX 052-789-2696

H P：https://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

創 立：1947年

学級数：15 (中学6 高校9)

生徒数：600人 (中学240人 高校360人)

生物多様性

海洋

減災・防災

気候変動

エネルギー

環境

文化多様性

世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等

国際理解

平和

人権

ジェンダー平等

福祉

持続可能な生産と消費

健康

食育

貧困

エコパーク

ジオパーク

グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)

その他関連分野

DEI Diversity Equity Inclusion の社会を目指して

(多様性)

(公平性)

(包括性)

はじめに

すべての人たちが、みんな等しく安全に平和に暮らすにはどうしたらいいんだろうか。そんな素朴な疑問を改めて感じています。「安心・安全」な社会。「安心」とは心のこと。「安全」とは体のこと。心も体も平和であるってどんな状態

なんだろう。DEIが本当に実現している社会ってどうしたらできるんだろう。これからの世界をDEIな社会にしていけるには、子どもたちだけでなく大人もしっかりと考えなければならぬと思う。

実践内容①

「新エネルギーを考える」

ねらい：エネルギーっていったい何なんだろう。

なくてはならないエネルギーだからこそ考えてみたい。

2011年3月11日に発生した東日本大震災。本校も大きく横に揺れた。授業中であった。今の高校生はまだ幼くてその記憶も少ないかもしれませんが、実際に現場を訪れ、当時の状況を知るとともに、今、どのように現地は復興してきているのかを知るために福島県を訪問した。参加した生徒は25名、教員は3名で12月19日～21日の2泊3日の行程で実施した。双葉町・東日本大震災原子力災害伝承館、請戸小学校などを訪問し、現地のフィールドパートナーからお話を伺った。お話を伺う中で「復興」とは何かについて改めて考えさせられた。まだ帰宅すること

さえできない地区や当時の状況をそのままに残している家屋を目の当たりにして生徒たちだけでなく引率した教員も言葉を失った。大熊町・中間貯蔵事業情報センター／中間貯蔵施設にも立ち寄った。東京電力の方の同行で放射能に汚染された残土処理の過程やその残土の新たな活用についても学ぶことができた。いわきバッテリー・推進機構の方からは、水素を使った新エネルギー開発についても学ぶことができた。私たちにとってなくてはならないエネルギー。何が正解かはわからないが、考え学ぶことは非常に大切だと痛感した。



フィールドワークの様子

成 果

原子力発電所の再稼働が毎日のように新聞紙面に掲載されている。現地に行ったからこそわかる、感じる、考えることができるようになったと思う。その体験や経験を今度は他に伝えていって欲しい。至る所にあった放射能測定機から何を生徒たちは読み取ったのか。3月には2回目の福島研修を予定している。

実践内容②

『『持続可能な社会』とは
誰にとっての社会か?』

ねらい：専門家から最新状況についてお話を聞き、
自らの生活を振り返り、考えることをねらいとした。

上記のタイトルは、伊井直比呂先生（神戸女学院大学特任教授 大阪公立大学客員研究員）の講演タイトル「教育の国際化とESD・SDGs —『持続可能な社会』とは誰にとっての社会か?」からつけさせていただいた。伊井先生は「自分はどんな価値を大切にしているか」「異なる価値観をもつ相手とどう向き合えるか」「社会の問題に対して、自分はどんな役割を果たせるか」について参加者

一人一人に問いかけ、SDGsや探

究活動が教室の中だけではなく、現実の社会の中で必要とされる視点であることを改めて理解できた。伊井先生がおっしゃった「未来をつくるのは、皆さん一人ひとりの学びと行動です」という言葉は、多くの生徒や参加した保護者たちの心に響いた。



伊井先生の講演

成果

「持続可能な社会」とは「みんなの知恵と力を合わせてつくっていく社会」と伊井先生はおっしゃりました。世界は分断と孤立の社会になっている今だからこそ何が必要なのかを参加した生徒や保護者、教員はしっかりと感じることができたと思います。

実践内容③

「種の保存についての研究実践と
フィールドワーク」

ねらい：生物多様性の深刻な危機に陥っている現在、
種の保存について考える。

中部地区においても、もともとは日本在来馬の1つであったが年々その数が激減してきた「木曽馬」がその一例として挙げられる。「木曽馬」は現在、長野県木曽地域（木曽郡）を中心に飼育されている。生徒の課題研究活動の一環として「種の保存」についての研究とフィールドワークを名古屋大学博物館と連携して実施した。今年度は2回の合宿を実施して木曽馬について観察、研究を行った。そして

その成果として
木曽馬BOXを制

作し、名古屋大学博物館で展示公開を行った。また本校のグラウンドに木曽馬を招へいし、近隣の方を招待し「乗馬体験」や「ブラッシング体験」を行い、参加者にとっても「種の保存」について考える機会となった。



学校に木曽馬がきた

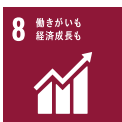
成果

成果物を実際に、名古屋大学博物館に展示し多くの来場者に見てもらえたのは成果である。名古屋大学博物館教員との共同事業として位置づいているため、大学教員がその成果を学会等で発表してくださり、研究者にも活動内容が広がったのも成果である。

おわりに

人間だけでなく、自然や動物を全部ひっくるめてこそ「DEI」の実現に近づくと考えている。だれにとっても「安心・安全」な社会を構築するためには、伊井先生がおっしゃたように「みんなの知恵と力を合わせてつくっていく」ことが必要である。誰にとっても「安心・安全」な

エネルギーが必要であり、自然界も含めてみんなで地球を維持しつづけていくために、みんなが考えることをしなければならない。「探究」が教育界では中心となっているが、まさに「みんなで知恵と力を合わせる」社会に向かって欲しいし、みんながそう成長して欲しい。





愛知教育大学附属高等学校

住 所：〒448-8545 刈谷市井ヶ谷町広沢1

連絡先：TEL 0566-36-1881 FAX 0566-36-1883

H P：http://www.auehs.aichi-edu.ac.jp

創 立：1973年

学級数：12

生徒数：354人

生物多様性

海洋

減災・防災

気候変動

エネルギー

環境

文化多様性

世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等

国際理解

平和

人権

ジェンダー平等

福祉

持続可能な生産と消費

健康

食育

貧困

エコパーク

ジオパーク

グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)

その他関連分野

ユネスコスクールとしての本校の実践について

はじめに

本校は、「人生を切り拓く探究力」を活動テーマとして、「主体的に学び続ける力」、「他を受け入れ協働する力」、「新たな価値を創造する力」の育成を目標に活動している。

ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野については、校内での様々な活動に組み込まれており、以下に本年度の活動を報告する。

実践内容①

『「地球市民および平和と非暴力の文化」について』

ねらい：総合的な探究の時間で「附高ゼミ」と称して

SDGs等幅広いテーマについて探究活動に取り組んでいる。

今年度についても生徒一人ひとりが、選択した分野を探究し、ポスター・プレゼンテーション・レポート等にまとめる活動を行った。

具体的な活動としては、1学年にてASPUUnivNet担当大学である愛知教育大学から講師を招き、総合的な探究の時間に高大連携授業として、6月ごろに4週にわたって

様々な学問分野の講義を行い、活動の充実に努めている。また、探究基礎講座として本校がある刈谷市井ヶ谷町の地域の方と、よりよい地域社会作りのための探究活動を地域探究として実施している。

2学年では自己探究として大学研究を実施した後に「附高ゼミⅠ」として大学の先生方の協力も得ながら個人探究を実施し、年度末に個別に発表活動へつなげている。

3学年では前年度の附高ゼミⅠを引き継ぎ、「附高ゼミⅡ」として個人探究をさらに発展させ、最終的には10月の附高ゼミ成果発表会での個人発表を実施している。



「附高ゼミ」成果発表会の様子

成 果

1年生は学問探究と地域探究について年度末にグループで発表会を実施している。2年生は「附高ゼミⅠ」として年度末に中間発表を各個人発表として実施し、3年生は10月に「附高ゼミⅡ」として成果発表会にて成果を発表している。

実践内容②

『『持続可能な開発および
持続可能なライフスタイル』について』

ねらい：令和2年度(2020)より、サスティナ部が新たに設立され、SDGs等についての活動を実施している。

本校のサスティナ部は令和2年度(2020)に部活動が再編された時にその当時の科学部と英語部を再編させて創部された。主にはSDGs等を意識して活動しており、活動内容としては、学校周辺の環境改善につながる研究として、主に令和3年度(2021)から始めた3つの活動がある。また、大学との連携により、地域の子どもたちを招いての活動も実施している。

- (1) 学校裏の放置竹林の整備と竹材利用法研究 ①メンマの作成 ②竹炭濾過による水質研究 ③竹細工の継承と竹家具等の作成 ④竹葉茶による香りの研究)
- (2) カキツバタ保全活動につなげる教材作成および啓発活動
- (3) 腐植竹の糸状菌を用いた土壌研究



地域の子どもたちとの
竹林整備事業

成果

令和7年(2025)10月3日から4日に愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)で開催された「SDGs子ども・ユースフェア」(SDGs AICHI EXPO)にてポスター展示および成果物展示で出展参加をしている。

実践内容③

『『異文化学習および文化の多様性と
文化遺産の尊重』について』

ねらい：愛知教育大学のインドネシア留学生による、「生物基礎」の授業を本校の生徒に向けて実施した。

令和7年(2025)10月、愛知教育大学では、インドネシア共和国セベラス・マレット大学 教員養成・教育学部と「教員養成課程の学生交流パイロットプログラムに関する協力合意書」を締結する運びとなり、本協力合意書に基づき、両大学は約3週間にわたる教員養成課程の学生交流パイロットプログラムを実施することとなった。プログ

ラムでは、受け入れ大学における選択科目の履修、受け入れ国の学校視察、経験豊富な教育者による教員カウンセリングセッション、授業計画の分析・作成ワークショップ、さらには現地学校(本校)での授業実践の実現を試みた。授業は2名の留学生で実施され、主に理系の生物クラスでの授業となった。



留学生の授業の様子

成果

インドネシアの気候、植物など生物だけでなく地理的な要素も含まれた授業となった。授業は英語で実施されたが、授業後の生徒のアンケートによると生物多様性についての意見の他、英語についてもよく理解ができると答えた生徒が多く、大変意義のあるものであった。

おわりに

ユネスコスクールが重点的に取り組む分野について、本校の総合的な探究の時間で実施されている「附高ゼミ」をはじめ、サスティナ部の活動や、大学が開催する「子どもキャンパスプロジェクト」など校内のみならず活動の幅を広げている。外部への発信について課題が見られたが、学校のHPをはじめ、昨年度の反省を生かしてある程度

意識をしながら取り組むことができた。今後も本校が「ユネスコスクール」として、外部への発信を続けてきたい。さらに、刈谷市が主催するカキツバタ群落の保護活動や外来種駆除活動への積極的な参加を通じて、環境保全を意識させたいとも考えている。





愛知県立愛知商業高等学校

住 所：〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目12番1号

連絡先：TEL 052-935-3480 FAX 052-935-3470

H P：https://aichi-ch.aichi-c.ed.jp/

創 立：1919年

学級数：21

生徒数：807人

生物多様性

海洋

減災・防災

気候変動

エネルギー

環境

文化多様性

世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等

国際理解

平和

人権

ジェンダー平等

福祉

持続可能な生産と消費

健康

食育

貧困

エコパーク

ジオパーク

グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)

その他関連分野

ユネスコクラブとSDGsのつながり

はじめに

本校では、名古屋近代化の歴史的遺産が数多く残るエリア「文化のみち」の地域活性化を目標として2011年より「なごや文化のみちミツバチプロジェクト」がスタートした。2016年にユネスコスクールとして登録されたことを

きっかけに「ユネスコクラブ」として改名した部活動では、都市型養蜂と商品開発を核とした活動をとおして、環境を守る活動を行っている。

実践内容①

「高校生による養蜂活動と地域活性化」

ねらい：都市型養蜂で採取したハチミツを使って、
地元企業との関わりを持ちながら環境について考える。

2011年より「なごや文化のみちミツバチプロジェクト」が立ち上げ、校舎の屋上で養蜂活動を実施している。



屋上での養蜂活動の様子

環境指標生物であるミツバチは、農薬汚染が少なく多様な花や緑に囲まれた環境でしか生育できない。また約7割の作物の受粉の媒体となっている。

ユネスコクラブでは名古屋市東区が主催する「スモールアクションプロジェクト」への参加や、校内に菜の花を植えるなど学校内外の花壇の整備を行い、ミツバチの蜜源確保とともに、花で「人」「地域」「ミツバチ」の全てが幸せになれるよう持続可能な街づくりに向けて活動を続けている。

また、本校周辺には日本庭園「徳川園」があり、採取した蜂蜜に「徳川はちみつ」と名付け、商標登録も行った。この蜂蜜を使用して、地元企業とコラボした商品開発も行い、地域イベントや学校祭などで販売を行ってきた。これらの活動をとおして、地域活性化に貢献している。



成果

ミツバチをとおして環境や持続可能な街づくりを考えた活動を続けている。2025年度も様々な地域イベントや学校祭で地元企業とコラボした商品を販売し、地域活性化に貢献してきた。

実践内容②

「シートベルトでつなぐ地域との関わり」

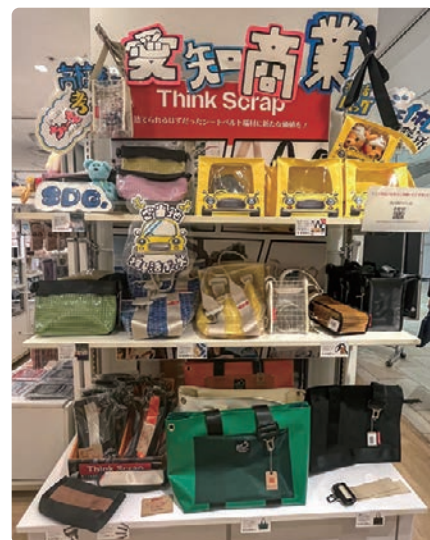
ねらい：地元産業の課題を知り、解決を目指すことで、持続可能な生産と消費を目指す。

これまでの活動で、1日に約300kgのシートベルトが廃棄されている現状を知ったことで、この問題を解決する取組に挑戦することになった。そして、株式会社東海理化のThinkscrapと協力をし、若年層をターゲットにした推し活バッグを開発、販売してきた。しかし、全体の廃棄量からみると、端材の削減量は不十分であること、販売機会が一時的であることが課題であった。そこで、商業高校として学んだ知識を生かしながら、SDGsの目標「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「12. つくる責任・つかう責任」の達成を目指し新たな取組を開始した。

教科書にも出てくる「QualityControl (品質管理、以下QCとする)」の考え方を活用し、パレート図や特性要因図、マトリックス図などを活用し、現状の課題の分析や仮説を打ち出した。また、商業として学んできたマーケティングの知識から各種分析を行い、製品計画を立てていった。その中で、SNSを活用した宣伝方法に着目し、推し活の専門家にも協力をいただきながら新たな推し活バッグを開発した。このバッグは、車関係やSDGs関係のイベントなどでしか販売していなかった前回のバッグとは違い、協力していただいた推し活の専門家の店舗で販売を行うことにした。その結果、今までとは違う客層にアップサイクル

について知っていただくきっかけを与えることができた。販売に伴い、バッグに使用する端材も増えたため、目標としているシートベルトの廃棄量削減にも協力することができている。

現在は推し活バッグ第3弾として、新たな製品を開発、販売に向けて取組をスタートしている。これまでとは違ったターゲット層に販売することで、アップサイクルについて関心をもつ人を増やしていきたいと考えている。また、シートベルト以外にも役目を終えた未利用の毛糸と木の端材を使ったストリングアート作りや、木の端材と紙粘土を利用したオリジナル写真立てづくりなどの取組を行い、学校内だけでなく、地域の方々に向けたアップサイクルの認知度を高める活動もしている。これからもユネスコクラブの活動をとおり少しでもSDGsの目標達成に近づけることを期待しながら、これからも地元産業や地域との関わりを持ち続けていきたい。



販売実習で展示したレイアウト



完成した推し活バッグ第2弾

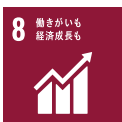
成果

地元産業が抱えている課題に対して授業で学ぶ商業の知識とSDGsを結び付け、新たな商品開発、販売につなげていくことができた。日々の学びが世の中につながっていることを再認識することができ、地域社会や多くの人とのつながりについても実感することができた。

おわりに

ユネスコクラブでは、都市型養蜂や商品開発をとおり地域活性化とSDGsの目標達成のための取組をしている。参加するイベントでは様々な人や商品に出会い、私たちの活動を伝えていくとともに環境に対する新たな気づきも

生まれている。これからも「文化のみち」の地域活性化に取り組みながら、ユネスコスクールとしてSDGsの考えを達成できるよう持続可能な発展を目指し精力的に活動を続けていく。





愛知県立豊田東高等学校

住 所：〒471-0811 豊田市御立町11丁目1番地
連絡先：TEL 0565-80-1177 FAX 0565-80-5066
H P：https://toyotahigashi-h.aichi.ed.jp

創 立：1924年
学級数：18
生徒数：710人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー **環境** 文化多様性 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等
国際理解 平和 人権 ジェンダー平等 **福祉** 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
エコパーク ジオパーク **グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)** その他関連分野

持続可能な社会を創る学びの実践

はじめに

本校は、環境教育、国際理解教育、地域連携教育を三つの柱として、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいる。具体例としては探究活動と連動した台湾修学旅行や、姉妹校派遣を軸とした国際理解教育、地域

でのボランティアや企業連携などの活動を実践している。また、自他の敬愛と協力により、多様な生き方や価値観を尊重するとともに、自らの在り方や生き方を追求して夢の実現に向けて主体的に行動する生徒を育成している。

実践内容①

「オーストラリア姉妹校との異文化交流」

ねらい：オーストラリア姉妹校との交流をとおり、異文化を理解する態度を養う。

2025年5月17日(土)から24日(土)までの8日間、本校の姉妹校であるオーストラリア・パスコベール女子高校より、生徒15名と引率教員3名、計18名を迎え、姉妹校交流



部員に教わりながら書道を楽しむ

を実施した。滞在期間中、来校生徒は本校生徒宅にホームステイし、生活を共にしながら交流

を深めた。

来校生徒は、それぞれのホストシスターと共に授業に参加し、日本語と英語の言語の違いに戸惑いながらも、本校生徒の支援を受けつつ学習に取り組んだ。また、授業内では英語による自己紹介を行ったり、グループを作り調理実習に取り組むなどして他の生徒とも積極的に交流を図った。

さらに、箏曲や書道、茶道など日本独自の部活動にも参加し、本校生徒が主体となって日本文化を体験できる活動を企画・実施することで、相互理解を深めた。

成 果

本校生徒は、交流をとおり異文化理解を深めるとともに、主体的に行動し、国境を越えた人間関係を築く力を身に付けた。交流期間終了後も生徒同士の関係は継続し、持続可能な国際交流へと発展している。

実践内容②

「地域連携活動」

ねらい：地域と協働することで文化理解と創造力を育み、
地域活性化と持続可能な社会づくりに貢献する。

豊田市駅前の桜町本通り商店街から依頼を受け、フラッグや店舗バナー、
拳母神社参道に設置する「あんどんじゃん」を制作した。フラッグはビジ
ネスプラン3年生、バナーは美術プラン3年生が担当し、商店主と打ち合
わせを重ねて完成させた。「あんどんじゃん」は美術プラン2年生が制作し、
年末年始に設置された。

また、地域活性化を目的にトヨタ生活協同組合と連携し、調理・栄養
プランの生徒が「高校生の作るお弁当」や「恵方巻」企画に参加。試作・
試食を経て商品化され、メグリア各店舗で販売された。

さらに、豊田商工会議所青年部が運営するIPPO CLUBの活動に参加。「とよた魅力発見隊」「豊スタおいでん夏祭り」
「とよた産業フェスタ」「とよた元気まつり」などのイベントで、地域の子どもや来場者と交流し、ブース運営や企画を通じて
地域貢献を行った。これらの活動を通じ、生徒は地域とのつながりや協働の大切さを学んだ。



コラボ弁当ポスター

成果

地域連携活動は生徒にとって、多様性理解と持続可能な社会づくりの重要性を学び、
創造力と社会参画力を育む貴重な機会となった。

実践内容③

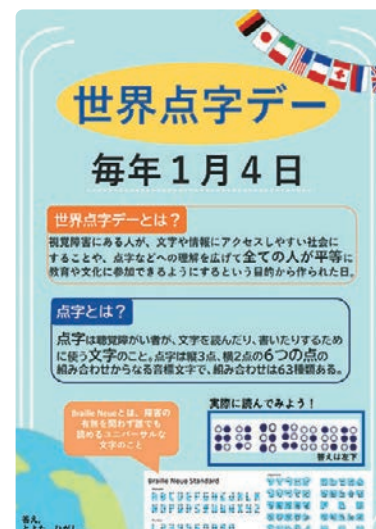
「ユネスコ国際デー周知運動」

ねらい：ユネスコ国際デーをとらして、ユネスコの理念を
全校生徒に周知し、国際的課題への関心を高める。

本校では、ユネスコスクールとしての取組を全校生徒に浸透させるため、年間
18日のユネスコ国際デーを取り上げた。各国際デーに1クラスの係生徒が中心と
なり、テーマに沿ったポスターを作成して校内に掲示した。また、その意義や現代
社会とのつながりについて考えた原稿を作成し、昼休みの校内放送で読み上げる
活動を実施した。視覚と聴覚の両面から継続的に発信することで、生徒一人一人が
国際的課題を身近なものとして考える機会を設けた。

成果

ユネスコ国際デーへの理解が深まり、ユネスコスクール
としての取組が全校生徒に浸透した。係生徒の主体性や
発信力の向上も見られ、国際的課題を自分事として考える
姿勢が育まれた。



生徒が作成したポスター

おわりに

本校のESD（持続可能な開発のための教育）の取組は、
生徒が日頃の学びを生かし、自らの進路について考える
機会となっている。ユネスコスクールとして、「SDGsを
とらして持続可能な社会の担い手を育む教育」をいかに

具体化していくかを全教職員で共有し、継続的に実践して
いきたい。また、今年度新たに築くことができた多くの
つながりに感謝するとともに、来年度もさらなる連携を
広げていきたい。



北高

名古屋市立北高等学校

住 所：〒462-0008 名古屋市北区如来町50番地
 連絡先：TEL 052-901-0338 FAX 052-902-1596
 H P：https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kita-h/

創 立：1963年
 学級数：21
 生徒数：827人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー 環境 文化多様性 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等
 国際理解 平和 人権 ジェンダー平等 福祉 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
 エコパーク ジオパーク グローバル・シチズンシップ教育 (GCED) その他関連分野

SDGsアクションの第一歩

はじめに

本校は2015年度に国際理解コースを開設し、SDGsに積極的に取り組んできた。2018年にユネスコスクールとなり、翌年には「ユネスコ委員会」を立ち上げた。自主的活動の継続を目指し、生徒自身の当事者意識を高める

ために、生徒による生徒のための企画を実践している。SDGsの啓発活動や活動実践をととして、生徒たちがグローバルイシューを自分事として捉え、身近な活動から自発的に行動を起こすことを支援している。

実践内容①

「ユネスコ委員会の活動」

ねらい：生徒が自ら問題を見つけ、その問題への取組を自ら発案し、実践していく力の育成。

生徒会の委員会の一つであるユネスコ委員会は、各クラスから選出された1名と有志参加者で成り立っており、毎年様々なプロジェクトを実践している。学校祭フェアトレード雑貨販売、SDGs映画上映会、書き損じはがき回収、フェアトレードチョコレート販売、コンタクトレンズ空ケース回収、ランドセルの寄付活動等、多くの活動が



アップサイクルワークショップ

本校の年間行事として定着してきている。

それに加えて、一昨年度からは「アップサイクル」という活動も積極的に行っている。これは、不要となったものをただリサイクルするのではなく、デザインやアイデアといった付加価値を加えて元の製品よりも高い価値をもつ製品へと生まれ変わらせる活動である。今年度はその活動実践として各種イベントに出展し、名古屋市青少年交流プラザでは木の枝や葉っぱを使ったワークショップ、名古屋栄のオアシス21ではペーパービーズを用いたブックカバー作成のワークショップを実施した。



成 果

かなり身近になってきた「SDGs」という言葉だが、実際にその目標達成のためのアクションをしたことがない生徒は多い。委員会をととして様々な活動を実践することで、生徒たちがSDGsを自分事として考え、行動に移していくための第一歩となっている。

実践内容②

「ユネスコスクールとしての活動」

**ねらい：生徒がSDGsを身近に感じ、
問題解決に向けて自ら問いかける力を育成する。**

本校では毎年、SDGsに関連する様々な講演会を実施している。本年度もユネスコスクール講演会、企業講演会、ICAN講演会、異文化理解講演会等、数多くの講演会を企画した。豊かな知識や経験を持った講演者の話を聴き、視野を広げる機会となっている。

昨年度発足した本校の有志イベント企画チーム「きたステップ」はさらに活動の幅を広げている。地元の特産品である味鋤芋の栽培・商品のイベント販売や、各家庭や地域の商店街から回収した不用品を0円で必要としている方に提供する「ラプトレード」活動に参加した。他にも、防災意識向上のために有志生徒によって行われた避難所運営体験では、凍えるような寒さの中で炊き出しを行い実際に体育館に宿泊した。



味鋤芋プロジェクト

成果

リアルな経験を聴き、体験を増やすことで、SDGsという言葉や概念を自分の生活と結びつけて考える習慣が身につく。小さなアクションが地球規模の成果を生み出す第一歩となることを学び、自分たちにできることを実践に移すことができるようになった。

実践内容③

「ユネスコスクールとの交流をとおして」

**ねらい：ユネスコスクール間の交流を深め、
お互いのプロジェクトから学びあう。**

ユネスコスクール交流会とSDGs活動体験発表会に参加し、ユネスコスクールとしての本校の取組を報告した。余念なく準備して臨んだ本番では、堂々とプレゼンテーションをすることができた。発表前後には他のユネスコスクールの生徒と交流する機会があり、他校の活動内容について知るだけでなく、自分たちと同じようにSDGs等にかかわる問題に取り組む高校生同士で意見交換や交流の場をもつことができた。



ユネスコスクール交流会

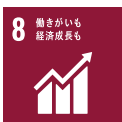
成果

他校の取組だけでなく自分たちの周辺社会の活動を広く知る機会をもつことができ、様々な気付きや学びを得ることができた。また、大勢の前で発表をすることで問題意識を共有し、発信することへの自信につながり、大きく成長することができた。

おわりに

本校のモットーは「楽しくサステナブルな活動」である。委員会だけでなく、有志生徒を中心とする自主的な活動が増えている現状は非常に喜ばしい状態だ。ユネスコ世界寺子屋運動などの他団体の活動への参加だけでなく、本校独自の活動となるフェアトレード推進活動も、定例

行事として定着しつつある。SDGsは、地球上に生きる誰もが向かうべき目標であり、達成されるまで行動し続けることが求められる。継続するためにも「楽しさ」を意義ある活動へ繋ぎ、世界に目を向け、「できる」ことから行動する力を生徒の中に育んでいきたい。





名古屋市立山田高等学校

住 所：〒452-0817 名古屋市西区二方町19番地の1
連絡先：TEL 052-501-7800 FAX 052-504-2968
H P：https://nagoya.fureai-cloud.jp/yamada-h/

創 立：1978年
学級数：23
生徒数：890人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー 環境 文化多様性 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等
国際理解 平和 人権 ジェンダー平等 福祉 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
エコパーク ジオパーク グローバル・シチズンシップ教育 (GCED) その他関連分野

「なごや発「地球人」の育成を目指して

はじめに

山田高校は、命・心・環境を大切にする「人間教育」の実践を掲げ、2012年に「ユネスコスクール」に認定された。スクールミッションは、命・心・環境を大切にする「人間教育」を実践する「ユネスコスクール」として、健やかで

柔軟な心身の育成とともに、社会について興味を持ち、主体的に関わりながら、自らの進路目標を実現できる人材の育成を目指している。現在は「防災」「国際理解」の実践活動にも幅を広げて取り組んでいる。

実践内容①

「防災委員の取組」

ねらい：自然災害に備えることの大切さを理解するとともに、災害時に活躍できる人材の育成を目指す。

1・2年生の各クラスから1名の防災委員を選出し、委員会の活動をとおり、全校生徒の防災意識を高める活動に取り組んでいる。

1学期は、「災害予防」のための防災教育を目的として、防災委員が「防災施設見学」を行っている。2学期は、自然災害にどのように備えるべきかを学ぶとともに、災害発生時に地域社会においてどのように行動するべきかを



防災教室での講義の様子

考えるために、1年生全員を対象に「防災教室」を開催している。

適宜「防災新聞」を発行し、全校生徒に自然災害に備えることの大切さについて啓発活動を行っている。3学期は、「使い捨てカイロ」の回収活動にも取り組み、環境保全と防災意識の向上を図る。この活動を通じて、「自助」と「共助」の考え方を実践し、防災力の向上に努める。また、入学時に非常用備蓄食を購入して学校に保管し、卒業時に返却する取組を行っているが、その試食会を実施して非常食の新規購入品の選定も行っている。

成 果

防災委員を中心とした取組をとおり、生徒の防災に関する知識や関心が高く保たれている。日頃から「災害予防」の観点を持ち、住んでいる地域社会で何ができるのかを主体的に考えることができる生徒を育成することができている。

実践内容②

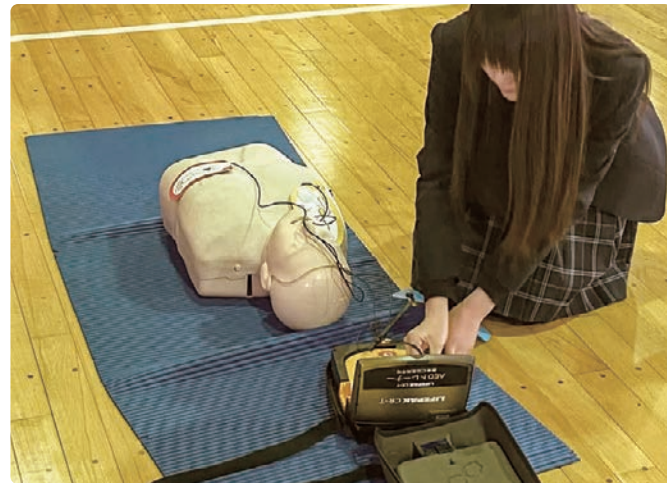
「AED特別講習会の取組」

ねらい：命の尊さを感じるとともに、救急救命の基礎を習得することで、主体的に行動できる人材の育成を目指す。

「人間教育」を実践するための中核として位置付けられている「命」に関わる体験活動として、「保健体育科」教員が中心となり「AED特別講習会」を開催している。この講座のために教員は、応急手当普及員の資格を取り、定期的に更新しながら生徒を指導している。「保健」の授業では、「応急手当（心肺蘇生法）」の単元において、応急手当の意義や手法、応急手当が必要な場面に遭遇した時に必要となる行動について理解するとともに、心肺蘇生法の技能などを身に付けることを目標にしている。「保健」の授業を受けた上でさらに応急手当について学ぶ意欲を持っている生徒を対象にした「AED特別講習会」では、初めにAED使用方法や活用の仕方について復習し、その後グループに分かれて心肺蘇生のトレーニング用人形とAEDトレーナーを使い実習を行う。実習内容は、傷病者発見から胸骨圧迫と人工呼吸、AEDの使用方法、傷病者の運搬法についてである。グループでの実習が終了したら、1人ずつ実技テストを実施している。指導資格を持った教員が指導することにより、実技テストに無事合格した生徒には「普通救命講習Ⅰ修了証」を授与している。



合格を目指し一人ずつ実技テストを実施



人形AEDトレーナーを使った実習

また、「命」に関わる取組として、戦争や原爆に関する学習や「被爆体験伝承者講話」、2年生の修学旅行における「平和学習」、人権に関する講演会を主とする「こころの健康教室」なども実施している。これらの活動をとおして、「平和」や「人権」について理解を深めるとともに、「命」の尊さや素晴らしさについて体感することができるようになっている。

成果

救急救命の基礎を学ぶことでAED機器の使用にも臆することなく、居合わせた人々と力を合わせて緊急時に対処する力を育むことができている。生徒がAEDの設置されている場所を校内だけでなく近隣の商業施設においても確認するなど、一人一人が「命」に真摯に向き合う姿勢を高めている。

おわりに

予測不能な社会情勢に的確に対応するために、探究的な要素を取り入れた学習活動の推進が今後もより一層求められている。「総合的な探究の時間」を軸に探究学習の改善を図るとともに、ユネスコスクールとしての取組を外部に対して効果的に発信していくことが課題である。他にも、「国際理解」に関する取組として、姉妹校提携を

結ぶオーストラリアのシドニー近郊にあるBMGS (Blue Mountains Grammar School) との国際交流のさらなる充実を目指す。今後も本校のユネスコスクールとしての取組を一層推進するとともに、SDGsの観点をより多く取り入れた本校らしい教育活動を進めていきたい。





名古屋経済大学市邨高等学校

住 所：〒464-8533 名古屋市中種区北千種3-1-37
連絡先：TEL 052-721-0161 FAX 052-721-1222
H P：https://www.ichimura.ed.jp/

創 立：1907年
学級数：41
生徒数：1,304人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー 環境 文化多様性 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等
国際理解 平和 人権 ジェンダー平等 福祉 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
エコパーク ジオパーク グローバル・シチズンシップ教育 (GCED) その他関連分野

国境を越え、協働して取り組む国際平和貢献活動

はじめに

私たちは、戦争等で自国を追われた難民や、戦争等を起因とした貧困環境で暮らす子どもたちを支援している人々との協働活動を2018年から始め、国連・NGO・企業・地域の方々、国内外の高校とパートナーシップ協定を結んでESDを推進している。特に大切にしていることは、知識

理解をもとに思考判断する際に現地の声を大切にすることである。ICT機器を活用しリアルタイムに現状を理解するとともに各種報告会を全国規模で実施し公正でより平和な社会の実現にむけたESD推進事業に取り組んでいる。

実践内容①

「シリア・パレスチナ難民の経済的自立を応援したい」

ねらい：ユネスコのESDの理念に基づき難民問題を公共的課題として探究し、対話と協働を通して持続可能な社会を担う資質・能力を育成。

UNHCRの報告によると、紛争や気候変動等を背景に世界の難民数は増加を続け、教育や就労の機会確保が国際社会の重要課題となっている。この現状を踏まえ、難民や難民女性の自立支援に取り組む専門家から学び、

フェアトレードの仕組みを理解した上で、校内外での啓発活動やチャリティ活動を継続してきた。文化祭や地域イベントでの出展をとおして、難民問題を社会に発信し、支援の輪を広げている。また、ICTを活用したオンライン対話により、シリア難民女性との対話やガザの学生との交流等国際的視点を共有し、課題を自分事として捉える探究的学習を進めている。国際理解教育と社会参画型学習のモデル形成を図っている。



UNRWAの清田先生、ガザの学生とオンライン交流

成果

難民支援の実践をとおして、ICTを活用した対話と協働により多文化理解と自己肯定感が高まり、難民を尊重し行動する姿勢が育った。継続的・自発的に社会課題へ参画する市民として成長する基盤が形成された。グローバル市民意識も深化した。

実践内容②

「カンボジア貧困地域の子どもたちの力になりたい」

ねらい：貧困や教育格差という社会的課題を探究的に捉え、
協働的な実践をととして社会参画の資質・能力を育成。

新型コロナが世界中に広がる前の2019年にカンボジア貧困地域の教育格差問題に取り組むNPO法人と絶対的貧困地域の学校の現状を学んでいる。現地との対話活動をととして小学校に遊具を贈ることにした。学校の文化祭などでチャリティバザーをそれぞれ行い、収益金を使って贈呈している。2020年と2021年はコロナ禍で手に入らないマスクを自作し、韓国や台湾などの海外の高校とも

協力して送った。マスクは2年間で約33,000枚を集めた。2022年夏は企業とも協力して手洗い場、2023年夏は鉄棒を贈った。2025年夏は世界遺産登録された虐殺博物館から中継学習会を実施した。さらに今年度は、タイとカンボジア国境コッコン州でJICA海外協力隊員と連携し、幼稚園の教育環境改善を計画した。



カンボジアのツールスレン
虐殺博物館との中継学習会

成果

紛争により安全配慮から現地贈呈式は見送ったが、ICTで情報共有し実情を学び、課題を探究的に捉え判断する力を育んだ。新たな戦争と直面したものの、人々と協働し対話を重ねることで、自分事として参画する力を育成した。

実践内容③

「パートナーシップで取り組む国際平和貢献活動」

ねらい：多様な立場や価値観を尊重しながら公共的課題を探究し、
対話と合意形成を通じて社会に参画する資質・能力を育成。

国際平和貢献活動を実施するに当たり、企業、NPO法人、大学研究者、国際機関関係者などの専門家から学び、多角的な視点で社会課題を理解する学習を継続している。ICTを活用したオンライン対話や協働学習をととして、現地の実情をリアルタイムで共有し、課題を自分事として捉える探究的な学びを実践している。生徒が互いの実践成果を国境を超えて報告し合う国際協働学習を実施して

いる。また、JICA海外協力隊員との連携により、国際協力の実際や重要性、持続可能な支援の在り方について学ぶ機会を設けた。「平和の架け橋」と位置づけ、学校・地域・企業・海外パートナーが連携するネットワーク型学習を推進し、継続的なパートナーシップの構築を図っていけるよう模索を行っている。



ユネスコウィーク企画「ユネスコって何？」で野口昇先生を囲んで

成果

異なる文化的背景や立場をもつ他者との対話をととして、多様性を尊重しながら課題を協働的に解決しようとする態度を身に付けた。また、専門家との対話をととして、社会課題を多面的・客観的に分析し、自ら問いを立てて探究する力が向上した。言語を越えて意思疎通を図る力、合意形成に向けて調整する力が育成され、ESDの理念に基づく持続可能な社会づくりの担い手育成につながった。教師は、教育課程を学び合う場へとつながった。

おわりに

本事業は、ユネスコ憲章の理念を重視し取り組んでいる。前文に示される「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」の精神のもと、「地球市民」として多くの方々に支えられ、主体的・対話的に学びを深めてきた。本事業はESD大賞

受賞、日本ESD賞公募推薦案件として評価されたが、これは、本事業に関わるすべてのパートナーの協働の成果として評価されたものである。今後も探究をととして平和教育と向き合い、協働して解決を図る力を育み、持続可能な社会の実現に寄与していく。





中部大学第一高等学校

住 所：〒470-0101 日進市三本木町細廻間425
連絡先：TEL 0561-73-8111 FAX 0561-73-8031
H P：https://www.chubu-ichi.ed.jp/

創 立：1938年
学級数：37
生徒数：1,157人

生物多様性 海洋 減災・防災 気候変動 エネルギー 環境 文化多様性 世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等
国際理解 平和 人権 ジェンダー平等 福祉 持続可能な生産と消費 健康 食育 貧困
エコパーク ジオパーク グローバル・シチズンシップ教育 (GCED) その他関連分野

探究活動とESDコースプログラム履修制度

はじめに

本学の建学の精神は「不言実行、あてになる人間」である。本校では、建学の精神とユネスコスクールの3つの重点分野の包括するコンセプトを「ICT×ESD×探究」と定めている。現在、「探究」と創造をテーマに「ESDコース

プログラム履修制度」として成立する多様なESD・SDGsカリキュラムを通じて本校で設定している10の「ESD資質能力」を育むことを目的とした学びの仕組みづくりを進めている。

実践内容①

「ESD AWARD/ESD CREATIVE AWARD」

ねらい：本校が定めるESD資質能力の涵養と
「不言実行、あてになる人間」を体現する人材育成。

独自の探究テキストや指導案を開発し、普通科1・2年を中心にESD探究を推進している。1年次は「探究ソロプロジェクト」と「地域探究」をテーマに、ワークシートを活用して課題を設定する。活動では「興味関心×進路×SDGs」を重視し、長期休暇中の「フィールドワーク」「実験・分析」「創作・表現」等を推奨している。テーマ設定

が困難な生徒には、夏季休暇中の「探究アドバイザーアワー」にて専門教員が個別指導を行う体制を整えた。

〈ESD AWARD〉

個人・団体の探究成果を発表・共有する場。相互のフィードバックにより、探究の質的向上を図っている。

〈ESD CREATIVE AWARD〉

年ごとのテーマをもとに自由に創造し「表現力」を養うコンテスト。優秀作品は展示ツアーとして一般公開される。デザイン・音楽の両部門において、生徒の独創性や表現力の著しい向上が見られる。



ESD AWARD

成 果

テーマの多様化に伴い、探究活動の深化が見られる。また、プレゼン発表やESD CREATIVE AWARD等のアウトプットの場を通じ、生徒の表現力や独創性が確実に向上している。

実践内容②

「ESDコースプログラム」

ねらい：創造的な探究活動を通じたESD資質能力の向上。

ESDコースプログラム概要

本プログラムは、探究活動を中心に本校の一連のプログラムへ主体的・継続的に参加し、所定の審査（研究レポート提出・プレゼン発表・口頭試問）を通過した生徒を「ESDコースプログラム履修生」として認定する制度である。2025年度は、以下の研究に取り組んだ3年生4名（共同研究含む）を認定した。

- ・『教育が将来の成功に与える影響』
- ・『植物図鑑 一地域の自然・文化を紡ぐライブラリー』
- ・『名前の付け方からタイ文化を探る
—国際協調への第一歩—』

〈主なESDプログラム〉

- ・ **ESD AWARD**：ESD・SDGs探究成果発表会、およびユネスコスクールや姉妹校との学校間交流会。
- ・ **ESD CREATIVE AWARD**：SDGsをテーマに「表現力」を養うコンテスト。優秀作品は「ESD EXHIBITION TOUR 2025 CLIMATE ECHOES」として、愛知県内10会場で展示を行った。
- ・ **ESD国内研修**：長野県白馬村において、現地企業や行政と連携して行う研修。
- ・ **ESD海外研修**：カンボジアのアンコール遺跡群修復活動や、現地の寺子屋交流を実施するプログラム。
- ・ **国際デー探究**：「国際生物多様性の日」「人権デー」をテーマにした全校共通の探究活動。
- ・ **Global Lounge**：留学生との意見交換や、探究的な学習を行う交流の場。



ESDコースプログラム認定審査会

- ・ **探究ライブラリー**：審査を経た探究成果を、専用WEBサイトにて生徒・教員間で共有するシステム。
- ・ **探究アドバイザー**：テーマ設定、研究計画、プレゼン指導などについて、専門教員から個別指導を受けられるコンサルティング制度。

ESD CREATIVE AWARD 2025
“CLIMATE ECHOES”
作品名『波紋』

〈ESD資質能力〉

各プログラムにおいて、以下の10項目による「ESD資質能力」評価を行っている（自己分析調査を年2回実施）。

- ①持続可能性／SDGsに関する知識・理解・スキル習得
- ②持続可能なライフスタイルの実践
- ③情報収集・選択・活用力
- ④論理的思考力
- ⑤批判的思考力
- ⑥創造力（応用力・企画力）
- ⑦発信力（言語化力・プレゼンテーション能力）
- ⑧行動力（主体性・課題発見能力・責任感・リーダーシップ）
- ⑨協働性（傾聴力・柔軟性・合意形成と協力）
- ⑩多様性と共生の尊重

〈活動詳細URL〉

ESDプログラムおよびユネスコスクール活動の詳細は以下を参照。

CHUBU1 ESD & ASPnet

<https://sites.google.com/chubu-ichi.ed.jp/cu1-esd/>

成果

ESD関連プログラムの充実により、生徒の主体的な研究活動が増加している。また、研修やCREATIVE AWARDなどを活用し、学外へも取組の幅が広がっている。

おわりに

一連のESDコースプログラムの発展は、ESD資質能力の向上と進路指導の充実へとつながっている。今後はこのプログラムへの参加率の向上を目指し、プログラム

の改良と本校独自の探究教材をはじめとする探究活動を支援する環境の整備を図る。



愛知県ユネスコスクール交流会（愛・地球博20祭）

愛知県のユネスコスクールの支援と、ESD（持続可能な開発のための教育）活動及びSDGs達成に向けた活動の広がりを目的として、日頃からESD活動に取り組む小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校及び大学の、児童・生徒・学生・教職員が集う交流会を2014年度から開催しています。

「2025年度愛知県ユネスコスクール交流会」は、今年度2つの会場で会期を分けて実施し、第1回は愛・地球博記念公園で、開催した「愛・地球博20祭」の会場内（体験学習室）で2025年9月20日（土）においてプログラムの一つとして実施しました。交流会では、発表者や参加者が様々な主体・世代と交流し、学び合いました。

- 日 時** 活動発表：2025年9月20日（土）午後1時30分から午後3時30分まで
展示物発表：2025年9月20日（土）午前10時から午後4時まで
- 会 場** 愛・地球博記念公園 体験学習室
- 主 催** 愛知県教育委員会
- 後 援** 日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、中部ESD拠点協議会、ESDコンソーシアム愛知

ポスター展示

学校名	テーマ
豊橋市立磯辺小学校	杉原千畝さんが絆を紡いだリトアニア共和国の魅力 ～パートナーシティ・パネヴェジス市との交流を通して～
愛知県立豊田東高等学校	豊田東高校のESD活動 ～国際理解教育～
名古屋市立山田高等学校	変わりゆく社会のなかで持続可能な学びを探る
中部大学第一高等学校	愛知と世界をつなぐ - Gibier × Accessibility
名古屋経済大学市邨高等学校	平和の架け橋プロジェクト2025
名古屋大学教育学部附属中・高等学校	アジアの一員としての私たち
愛知教育大学附属名古屋中学校	FWラボ (Fuchu - Well being ラボ) を通じた探究活動
愛知教育大学附属高等学校	切ってつなげるバンブーロード 活動報告

成果物展示

学校名	テーマ
豊橋市立磯辺小学校	世界を旅する「むくろう」キャップ ～リトアニア共和国とパプアニューギニアへの旅～
中部大学第一高等学校	ESD EXHIBITION TOUR 2025 CLIMATE ECHOES
名古屋経済大学市邨高等学校	難民キャンプに逃れた女性が作成した作品
愛知教育大学附属高等学校	切ってつなげるバンブーロード 竹の活用方法

活動発表

TIME	プログラム
13:30	開会行事（主催者挨拶） 愛知県教育委員会 あいちの学び推進課長 長坂 昌彦
13:35 ↓ 14:25	ユネスコスクール活動発表 長久手市立東小学校 ひがし 「気づき、考え、実行する！長東小のつなぐ伝統とSDGsアクション」 長東小が取り組んでいる、これまで（過去）、今（現在）、これから（未来）、を考えた取組についての報告
	長久手市立西小学校 にし 「にしっこSDGs大作戦！」 ユネスコ委員会を中心として行った、西小オリジナルSDGsの活動報告
	長久手市立長久手小学校 ながくて 「『つながり・支え合い』のある地域・学校の共生をめざして」 現在、ユネスコスクールチャレンジ期間中の長久手小学校児童会による活動報告
	愛知教育大学附属名古屋中学校 あいちきょういくだいがくふぞくなごや 「FWラボ（Fuchu－Well being ラボ）を通じた探究活動」 総合的な学習の時間「FLIGHT」における、3年生修学旅行の活動報告
	愛知教育大学附属岡崎中学校 あいちきょういくだいがくふぞくおかざき 「ESD活動にかかわるLifework（個人テーマ学習）」 Lifeworkの概要と、「二酸化炭素を減らすには」「福祉用具を作っちゃおう！」をテーマとする生徒2名による追究報告
14:25 ↓ 15:30	ディスカッション（発表者と参加者によるディスカッションなど） アドバイザー：愛知教育大学・自然科学系理科教育講座・教授 地域連携センター長 おおしかきよゆき 大鹿 聖公 氏



活動発表



活動発表



ポスター展示



ディスカッション



ディスカッション



会場の様子

愛知県ユネスコスクール交流会 (SDGs子ども・ユースフェア)

愛知県のユネスコスクールの支援と、ESD（持続可能な開発のための教育）活動及びSDGs達成に向けた活動の広がりを目指し、日頃からESD活動に取り組む小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校及び大学の、児童・生徒・学生・教職員が集う交流会を2014年度から開催しています。

「2025年度愛知県ユネスコスクール交流会」を、2つの会場で会期を分けて実施しました。第2回は、愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）で2025年10月3日（金）から10月4日（土）まで開催する「SDGs 子ども・ユースフェア」においてプログラムの一つとして実施しました。交流会では、発表者や参加者が様々な主体・世代と交流し、学び合いました。

日 時 ブース発表：2025年10月3日（金）から10月4日（土） 午前10時から午後5時まで
ステージ発表：2025年10月4日（土） 午後3時30分から午後5時まで

会 場 Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）展示ホールC

主 催 愛知県教育委員会

後 援 日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、中部ESD拠点協議会、ESDコンソーシアム愛知

ポスター展示

愛知県立豊田東高等学校

豊田東高校のESD活動 ～国際理解教育～
台湾修学旅行やオーストラリア姉妹校との交流活動など
全校生徒が関わることができる国際理解教育活動の報告

愛知教育大学附属名古屋中学校

FWラボ（Fuchu－Well being ラボ）を通じた
探究活動
総合的な学習の時間「FLIGHT」における、3年生修学
旅行の活動報告

名古屋市立山田高等学校

変わりゆく社会のなかで持続可能な学びを探る
「命・心・環境・防災・国際理解」を柱に、生徒の主体的な
学びを支えるESDの取組と成果の報告

愛知教育大学附属高等学校

切ってつなげるバンブーロード 活動報告
本校校舎裏の放置竹林の整備活動と、整備によって
生まれる竹材の活用方法についての報告

成果物展示

豊橋市立磯辺小学校

世界を旅する「むくろう」キャップ
～リトアニア共和国とパプアニューギニアへの旅～

中部大第一高等学校

ESD EXHIBITION TOUR 2025
CLIMATE ECHOES

名古屋経済大学市邨高等学校

難民キャンプに逃れた女性が作成した作品

愛知教育大学附属高等学校

切ってつなげるバンブーロード 竹の活用方法

ワークショップ

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

「葉脈標本のしおり作り」
葉脈をとおして身近な植物を観察します。作成した
葉脈標本に色をつけてオリジナルのしおりを作りま
しょう。

豊橋市立磯辺小学校

「杉原千畝さんが絆を紡いだリトアニア共和国
の魅力 ～パートナーシティ・パネヴェジス市
との交流を通して～」

リトアニアの装飾品「ソダス」づくり体験を行います。
コースターやリネンハンカチ等の民芸品を販売します。

ブース発表

TIME	プログラム
10:30 ～ 11:30	ポスターセッション① (4校)
	豊橋市立磯辺小学校 「杉原千畝さんが絆を紡いだリトアニア共和国の魅力 ～パートナーシティ・パネヴェジス市との交流を通して～」 国際理解・多文化理解をテーマとする6年生の「いそべ学習(総合)」における交流・学習の成果報告
	中部大学第一高等学校 「植物図鑑－地域の自然・文化を紡ぐライブラリー－」 「香りとSDGs」の視点から、地域の植物と文化を紡ぐ新しい図鑑の制作報告
	名古屋経済大学市邨高等学校 「平和の架け橋プロジェクト2025」 国内外の専門家と連携して難民問題・貧困問題について学んだ高校生が協定を結び世界平和活動を実践した報告
13:30 ～ 14:30	名古屋大学教育学部附属中・高等学校 「アジアの一員としての私たち」 ユネスコスクールの活動の一環として、名大附属の生徒がアジア3か国を訪問。そこで感じたアジアの中の日本についての報告
	ポスターセッション② (4校)



ユネスコスクールブース



成果物展示



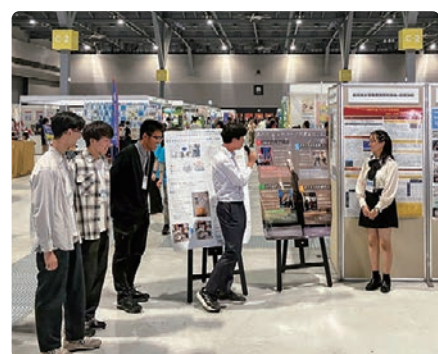
成果物展示



ワークショップ



ポスターセッション



ポスターセッション

交流会プログラム〈メインステージ〉

TIME	プログラム
15:30	開会行事 （概要説明～アドバイザー紹介）
15:35 }	ユネスコスクール活動発表
	あい ち しやうぎやう 愛知県立愛知商業高等学校 「ミツバチがつなぐ未来 ～地域と環境を守る取り組み～」 愛知商業高校ユネスコクラブが行った活動内容についての報告
	きた 名古屋市立北高等学校 「北高校 1年間の取り組み」 北高生によるSDGs活動報告
	な ご や けい ざい だいがく 市 ちやう とう 名古屋経済大学市邨高等学校 「平和の架け橋プロジェクト2025」 国内外の専門家と連携して難民問題・貧困問題について学んだ高校生が協定を結び世界平和活動を実践した報告
16:15 }	ちやう ぶ だいがく 第一 ち 中部大学第一高等学校 フェアトレード ネクストステージ 「Fair Trade ～Next Stage～」 オリジナルパッケージドリップコーヒーの初の校外販売についての報告
	ディスカッション （発表者と参加者によるディスカッションなど）
17:00	アドバイザー：ESD、SDGs推進研究室 室長 て じ ま と し お 手島 利夫 氏



ユネスコスクール活動発表



ユネスコスクール活動発表



ディスカッション



ユネスコスクール活動発表



ユネスコスクール活動発表



ディスカッション

ユネスコスクール活動事例集 第13集

2026年3月発行

愛知県教育委員会あいちの学び推進課
〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電 話 052-954-6780 (ダイヤルイン)
ファックス 052-954-6962